

レンゲが能勢と地域農家を救う？！

レンゲの花で三方よし！

大阪府立豊中高等学校能勢分校 総合学科 食農流通コース3年メンバー 加地美月・佐藤汐音・林綾乃・三上千美

- 目的 -

私たちの学校がある能勢町は、豊かな自然に多様な生物がすむ町。しかし少子化・町離れが進んでいる…
研究のきっかけは、授業で養蜂を学ぶ中で、

ミツバチにとっても能勢町にとっても良い関係ができる取り組みは何だろうと考えたから
様々な良さが集まった循環・継続可能な農業を能勢町で行いたい。
また地域の学校とも協力し、出前授業や能勢町がミツバチにやさしく、
自然豊かできれいな場所であることをみんなにもっと知ってほしい。
そして能勢町に人が集まれる場所になってほしいと思い活動を行います。

- 取組内容 -

解決案として思いついたのは授業で行っている養蜂でした。

そこで、ミツバチにとっても、能勢町にとっても良いような取り組みがあれば若い人が能勢町に
戻ってきてくれるのではないかと考えました。しかし、文献を色々調べてもハチを利用した地域おこしなど、
あまり先行実証がないことがわかりました。

困った私たちは何かいいものはないかと、養蜂の授業を振り返りました。その中で春、農場の水田に咲いているレンゲに気づき、
これなら人が集まり、ミツバチにとってもうれしい環境づくりができるのではなかと考えました。
しかし、レンゲ米についても先行実証がなかったため、まずはレンゲ米生産農家さんにお話を聞いてみることにしました。

① 3人のレンゲ米生産農家さんへ取材

- 1人目 株式会社アグリズム摂津の渡辺さん
- 2人目 ふるさと創生研究開発機構の中植さん
- 3人目 能勢の高校を応援する会の西田さん

取材内容

レンゲ米のメリットとデメリットなど



② 養蜂家さんや蜂に詳しい方々への取材

レンゲ米生産農家さんの取材後、私たちが行おうとしているレンゲで
地域おこしは農家さん以外の立場から見たときにメリットであるか、
デメリットであるか、意見を聞く必要があると考え農家さん以外の
立場の方々に取材をしました。

- 4人目 京都先端科学大学 准教授の井口さん
- 5人目 日本レンゲの会事務局長の佐藤さん
- 6人目 NPO法人で養蜂活動をしている寺床さん



③ 蜂が持つ宣伝効果の検証

実際にハチやレンゲで人を呼べるのか？

不安ではありましたが大阪の摂津市からイベント依頼があり、鳥飼八町（とりかいはっちょう）にて4月に体験会を実施！
4日で予約枠が埋まり、人が集めることのできるものだと知りました。

また大阪畜産会より大阪万博プレイベントに招待していただき、様々な企業が参加する中で唯一、行列のできる盛況ぶりを見せました！



レンゲを水田に植えると・・・

～メリット～

- ・根粒菌の窒素固定効果により肥料代の軽減する※従来の3分の1程度
- ・風景が美しく、ひとが集まる
- ・地域で話題性が出る
- ・れんげ米という付加価値がつき価格を差別化することが出来る
- ・れんげ米としての商品が消費されやすい
(農薬を気にする人が増えているため)
- ・レンゲ蜜が採れる(養蜂)※養蜂家にとって蜂のエサにもなる

～デメリット～

- ・種を撒く、すき込む回数が増えるといった手間がかかる
- ・メタンガス発生▶生育遅れることがある
- ・気温が低いと発芽しないため、稲刈り後、暖かい間に準備する必要があり、稲刈り後も忙しくなる。時期は10月末～11月

～今後の展開～

私たちが水稻農家さんへレンゲ播種を行うことで、水稻農家さんは、肥料代の削減・米価の差別化。養蜂家さんはレンゲが増えることで、ハチが元気になり、蜜が集まる。能勢町には春にレンゲの花の見学者が増えることにより観光地化・観光農業ができるようになり、能勢町全体が循環することが証明されました。今後は協力していただける水稻農家さんの水田に赴きレンゲの播種・レンゲマップの作成。また地域の小中学校へ蜂蜜を提供することで、本校の良さを知ってもらい、能勢町はミツバチに優しく、美しい街だということを広めます。

～考察～

レンゲを水田に播種することによって、レンゲがもつ根粒菌により窒素固定がおこなわれ、土壌中に窒素肥料分を取り込むことができ、そのため化学肥料代を削減することができる。また化学肥料を使わないれんげ米には付加価値がつき、通常のお米に比べると価格を差別化することができ、価格は市場調査で約2倍程度になることが分かった。養蜂家はレンゲ細が増えることで蜜源確保につながり、レンゲ蜜の採蜜量が上がるということが分かった。それに加え能勢町にレンゲ細が広がることで能勢の観光地が増え観光客も増加することが考えられる。

